

令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立蓮沼中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2、3学年において、目標値を上回る結果となった。
- ・第2、3学年において、達成率が昨年度とほぼ同等のとなった。

(2) 課題

- ・基礎的な計算力の定着
- ・数学的思考力の向上
- ・思考、判断を必要とする課題に対する理解・読解力

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	全国平均より0.4ポイント、区の平均より2.3ポイント、目標値より3.0ポイント上回った。		
第2学年	全国平均より1.9ポイント、区の平均より0.7ポイント下回ったが、目標値より4.0ポイント上回った。	全国平均より0.9ポイント、区の平均より1.4ポイント下回ったが、目標値より4.0ポイント上回った。	
第3学年	全国平均より0.1ポイント、区の平均より1.5ポイント、目標値を4.9ポイント上回った。	全国平均より0.9ポイント、区の平均より1.4ポイント下回ったが、目標値より4.0ポイント上回った。	全国平均より2.5ポイント、区の平均より3ポイント下回った。目標値より0.3ポイント下回った。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均より2.4ポイント上回り、目標値を2.6ポイント上回った。	区の平均より2.0ポイント上回り、目標値4.5ポイント上回った。	区の平均より、1.1ポイント上回り、目標値を3.3ポイント上回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均より1.3ポイント下回り、目標値を3.0ポイント上回った。	区の平均より0.7ポイント上回り、目標値を4.6ポイント上回った。	区の平均より1.5ポイント下回り、目標値を3.2ポイント上回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を1.1ポイント上回り、目標値を4.9ポイント上回った。	区の平均を3.4ポイント上回り、目標値を4.9ポイント上回った。	区の平均を1.1ポイント上回り、目標値を3.7ポイント上回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算は概ねできているが、分数、小数を含む除法や、平行四辺形や円の面積を求める問題において課題がみられる。副教材等を用いた復習や計算テストを実施し、定着させていく。	分配法則を使った工夫された計算の説明や、誤りを指摘し説明する問題において、課題がみられる。グループ学習の話し合い活動を通じて、様々な考え方、見方にふれることで、表現力を高めていく。	定期的に行う小テストや単元テスト、単元ごとにまとめる振り返りワークシートの作成で、要点をまとめることで、自分の課題を認識し、主体的に学習に取り組む姿勢や態度を養う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算は概ねできているが、絶対値や不等号の理解、方程式の移項、分数の除法などに課題がみられる。授業内での復習や計算テストを行うことで定着させていく。	思考・判断を必要とする課題を読み取る力が不足している。情報を整理し、図や表にまとめる力を高めさせる。また、グループ学習の話し合い活動を通じて、様々な考え方や見方にふれ、表現力を高めていく。	授業での小テスト、振り返りを通して、自己分析し、自分の課題に向けて、主体的に取り組む姿勢や態度を養う。また、計算問題でも、より合理的に処理する方法を見つけさせることで、数学的な関心を高めていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算は概ねできているが、図形、データの活用、関数の領域での知識の定着に課題がみられる。入試を見据えて1, 2年生の内容の復習テストを実施するなどをして学習を促す。	関数の領域において、課題が見られる。繰り返し問題演習を行い、グラフ等のデータを正しく読み取る力を育成する。また、関数と他の領域が関わる問題を通して、領域間の横の繋がりを意識し、広い視野で問題を考える力を養う。	課題を課したワークの中から出題する確認テストを実施することで、課題の定着度を図りつつ、主体的に学習に取り組む態度を養う。1度取り組んだ問題の確認テストをすることで、自己分析を行い、必要なことを調整していく力を育む。

